

民主苫小牧号外
2026年
11.8・15合併号
No.1164

日本共産党市議会議員
小野寺ゆきえです!

比例定数の削減は民主主義の破壊

今、私が懸念していることは、自民党、維新の会、国民民主党により、衆議院の比例定数を31議席削減しようとしていることです。今開かれている臨時国会での成立を目指しています。私たちは、絶対に反対です。

反対の理由は、比例代表は一番民意を反映する投票方法だからです。現在の投票制度は、小選挙区と比例代表の組み合わせです。小選挙区は1選挙区で1人しか当選できず、落選した候補者に投じた票は死票となります。2月の総選挙では、苫小牧を含む北海道9区の死票は、投票総数の56%にもなりました。

もう１つ、小選挙区には大きな問題があります。それは“1票の格差”です。選挙区ごとの有権者数にバラつきがあるため、2月の総選挙では、有権者が最多だった北海道3区と、最少だった鳥取1区の差は2倍でした。つまり、有権者が100人の選挙区でも200人の選挙区でも、当選できるのは1人だけです。1票の格差では、全国で「選挙の無効」を訴える訴訟も起きています。

一方比例は、1票1票の積み上げで当選が決まるため、民意が反映する選挙制度です。だからこそ、比例定数の削減は問題です。自民党などの定数削減派は、「国会議員が多過ぎるから」と言いますが、だとすれば、なぜ小選挙区も削減しないのでしょうか。また、日本の国会議員は決して多くありません。主要な国は人口10万人～15万人に議員1人ですが、日本は26万に1人です。

さらに姑息なのは、比例の計算方式を現行の[ドント式]から[修正サンラグ式]に変更するといっていることです。[修正サンラグ式]は、与党が有利になり、少数政党の当選を難しくします。これに対し野党からは「一部の政党だけで決める強行的な姿勢は受け入れられない」「比例は多様な声が政治に入っていく“入口”だ」などの反発があり、マスコミからも「民意を切り捨てることになる。再考を求めたい」「政治とカネの問題からの論点そらし」「民主主義の破壊」などの批判が広がっています。

民意が届かなければ、憲法が改定されて戦争につながってしまったり、ますます医療や介護が削られたり、ジャガイモがアメリカから輸入されることになるのです。そんなことは絶対に止めなければなりません。みなさん、“比例定数削減反対”の声を一緒にあげましょう!!

発行：日本共産党苫小牧地区委員会　苫小牧市見山町2-2-6　（文・責：小野寺幸恵）